

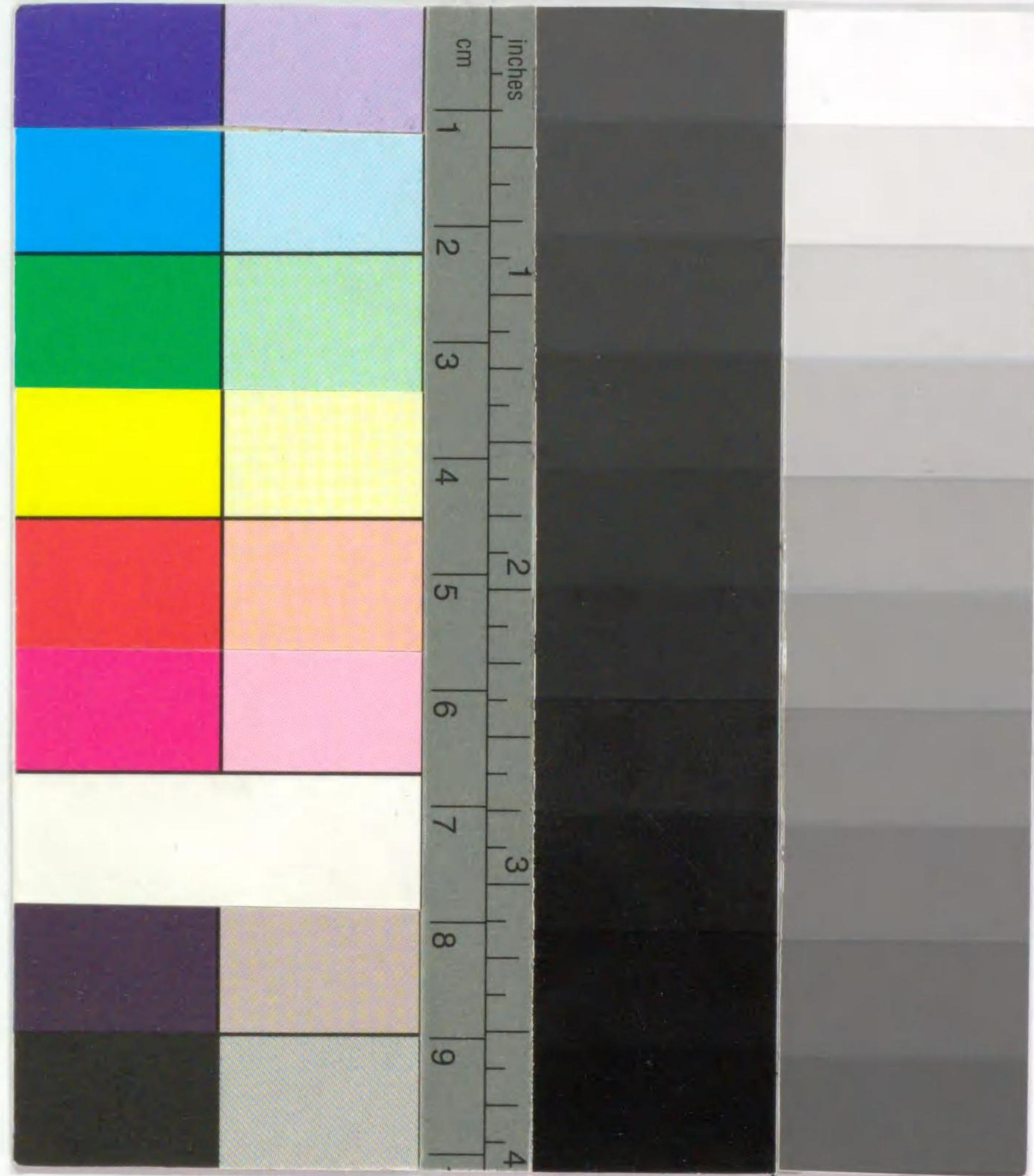
549
380

推薦書目録
第壹号

549-380



1200501507523



昭和三年二月刊行

推薦圖書目錄

第壹號

岩手縣圖書館協會



はしがき

館寄贈本

- 一、本目録は岩手縣圖書館協會の事業として、圖書購入の参考に供せんが爲め、會員に頒布する目的を以て編纂したものである。
- 二、本目録採擇の圖書は、大正十五年以降、岩手縣立圖書館に於て購入したるもの、中、通俗圖書館に備付け、主として男女青少年に讀ましむるに適當なるものを選定したのである。
- 三、今後出版せられたる圖書につきては、第二號以下に引續き掲載する豫定である。
- 四、卷末に掲げた發行所一覽は、本目録所載圖書の發行所のみを挙げたるを以て、新出のものに就きては、其の都度増補する見込である。



目次

一、哲學	一
二、宗教	七
三、教育	一一
四、文學・語學	一八
五、歷史	二七
六、地理	三二
七、法制	三四
八、經濟	三七
九、社會	三九
一〇、理學	四一

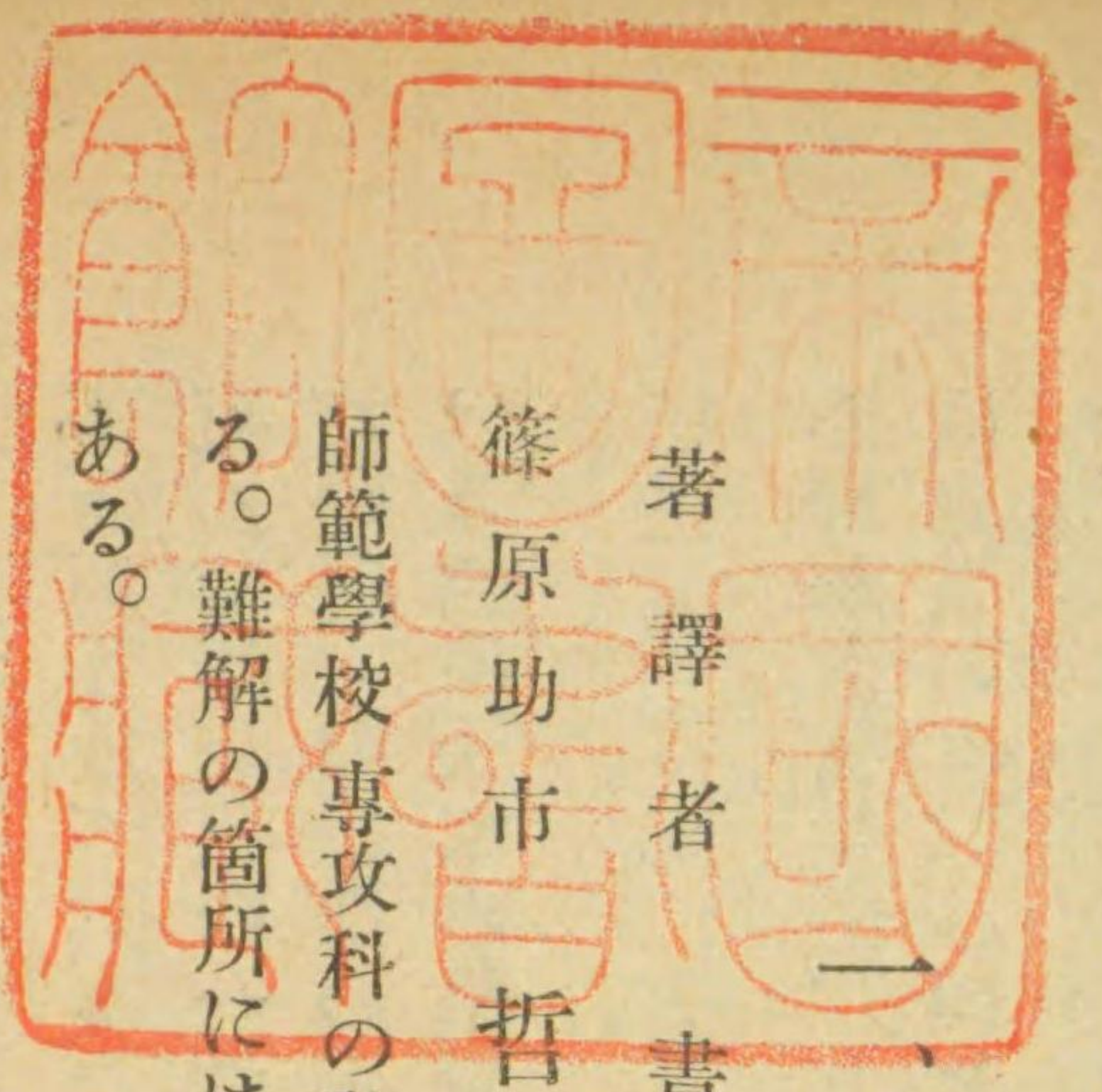
一一、醫學	四三
一二、工學	四六
一三、交通	四七
一四、兵事	四八
一五、美術	四九
一六、體育・娛樂	五一
一七、產業	五二
一八、家政	五八
一九、兒童用書	六一

推薦圖書目錄

第一號

昭和三年二月刊行

岩手縣圖書館協會



著譯者 書名 形體 裝幀 發行年月 頁數 定價 發行所

篠原助市 哲學綱要 菊判 洋布 大正一五、四 二九〇 一、六〇 寶文館
師範學校專攻科の教科書に充てんが爲めに、教授要目に準據して編纂したものである。難解の箇所には註を施し、或は特に細説してゐるから初學者には最も適した本である。

武者小路實篤 死に克つには 四判 並製 大正一五、七 二四七 一、三〇 春秋社

「人間は死に克てるやうにつくられてゐるものと思ふ。しかし死に克つには先づ生きなければならぬ。自分の生命を生かし切るか、他人の生命を生かすことに役立つか

しなければならぬと思ふ。」といふ信念から迸る著者の人生觀に就いての文章及び講演等を集めたものである。

遠藤隆吉 思想講話

四判 布製

大正
一五、五

四三、三八〇 教文社

著者が各地で試みた哲學に關する講演を蒐集したもので、大項目を摘記して見ると、東西哲學思想の一致、余が人生觀の一端、精神力、精神の統一、道德の性質研究法及び學問、國民性の研究と改良、日本の遠大なる理想、其他で、終りに、和漢古今に於ける哲學大家の學說を一々簡明に述べて研究者に便宜を與へてゐる。

松本亦太郎 實生活と心理

四判 洋布

大正
一五、九

三六、二、三〇 實業之日
本社

心理學と實生活、月とすつぽんとまでは行かずとも、縁の遠いものゝやうに考へるのは過去の事、心理を離れて實生活はない筈である。著者は我邦心理學界の權威、しかも學問的な原理を日常の實生活と關聯せしめて解り易く説いてゐる。心理學を知らぬ人には是非讀んで貰ひたい。知つてゐる人は勿論のこと。

佐藤鐵太郎 新日本への道

四判 洋布

大正
一五、一〇

四〇〇、二、〇〇 大日本雄
辯會

海軍中將たる著者が、時代思潮の變遷に鑑み、國家存立の正閏を論じ、國民性の得失を説きて、國民の自覺を促し、新日本の面目を顯彰せんことを提唱せる、青年必讀の書である。

二荒芳徳

若き日本の行くべき道

四六判 洋布

大正
一五、一一

六、五〇 蘆田書店

著者は華胄界の新人、燃ゆるが如き愛國の士、常に皇國の將來に光明あらしめんと努力する人。本書の冒頭に曰く「余は從來の忠君論に對しても、又愛國論に對しても甚だしく不満である。」曰く「何故に今の忠君愛國の論が時代の青年の心琴に觸れ得ないか。」と痛論精評、一段の高處に立つて親しく時代の青年に呼びかけてゐるのが本書の内容である。

徳富猪一郎 昭和一新論

菊判 並製

昭和
三、二

一四六、三〇 民友社

著者が昭和二年元旦に稿を起し、一氣呵成以て十一日正午前十分に脱稿したものであるといふ。思想混亂國家多難の秋に當り、忠憤の至情禁ずる能はずして、滿腔の赤誠を披瀝した一大論文で、我が國家の大理想を闡明し、現代の通弊を論破して國民各自の覺醒を促すに、著者獨特の雄筆を揮つてゐる。讀む者をして血湧き、肉躍らしめず

といふことはなし。

千代田會 義は君臣情は父子 菊判 並製 大正 一五、四 一五、六 一、〇〇 千代田會
今上兩陛下を始め奉り、明治大帝、照憲皇太后、先帝、皇太后御六方の御盛徳を稱へ奉り、國民精神の涵養に資せんことを期したものである。

加藤咄堂 精神作興の要諦 四六判 布製 大正 一五、八 四四 二、五〇 丙午出版

國民精神の作興、之より外に國家と國民の安寧幸福を期し得るものはない。本書は著者が全國に亘つて行つた講演の手記、又は筆記を集録したものであつて、世の指導者にとつては力強い輔導者となり、若き青年男女には無二の好伴侶となり得る。

杉村寒村 立身の基礎は如何 四六判 洋布 昭和 二、四 三四 一、八〇 中央出版

蟹が苦心した柿の實を、樂々と取つて食はうとする猿、夫は現代青年の一部の中に無いとは言へない。本書は成功を極めた先輩の跡をたづねて、青年諸君の雄志を啓發し以てお伽噺の猿たらざらしめんとする修養書、しかも趣味溢るゝが如し。

三浦藤作 修養趣味讀本 菊判 洋布 昭和 二、二 三五 一、八〇 帝國教育會出版部

書名が示す通り趣味と修養とを兼ねた話を、古今東西の書物から選んだもので、寓話もあり、事實談もあり、尋常四五年頃の少年少女の讀物としては適當のものである。大人が讀んでもよい。

徳富猪一郎 婦人の新修養 四六判 布製 大正 一五、八 三三〇 一、八〇 主婦之友社

本書は大正十三年「主婦之友」に連載されたものを集録したもので、昭和の新婦人たらんと志すものゝ當に讀むべき好著である。目次の二三を抄録して見る。(1)歐洲大戦と婦人の位置、(2)歴史を通して見たる日本婦人、(3)人口問題と日本婦人、(4)生活と趣味との關係、(5)學問と宇宙とに對する趣味の教養等。

大町桂月 人の運 菊袖 洋布 大正 一五、九 三三 二、〇〇 至誠堂

桂月翁の文天下に定評あり。本書の内容、古今東西の人物を拉し來つて、彼等の運命を論評し、讀者處世の活教訓たらしむ。一讀をすゝむ。

清原貞雄 武士道史十講 四六判 洋布 昭和 二、三 三、五 二、〇〇 目黒書店

上古の武士的精神から説き起して中世近世に及び、明治以後に於ける武士道にまで言

及してゐるのは本書の特色である。更に西洋と日本の武士道の比較論評を試み、最後に武士道の價値の批判に及んでゐる。

二 荒芳徳 新日本の自主的建設 四六判 布製 大正 一九三 一、三〇 寶文館

皇室及び國家に對する不忠順なる思想、政府及び官憲に對する反抗的精神、所謂危險思想につき吟味し、著者が忌憚なき所信を述べてゐる。

池園哲太郎 青年日本の建設 四六判 並製 昭和 一四〇 五〇 實業之日

現代の世相を矯めて、日本國家を救ふものは實に日本の青年である。青年の前途は洋々として希望と光に満たされてゐる。此の潑瀾たる青年の力に大なる期待を持ち、大いに青年運動の急務を提唱したものが本書である。

山崎延吉 親愛なる青年へ 四六判 洋布 昭和 三〇一 一、五〇 田村文誠

青年を愛し、青年を信頼しようとする著者が、親しく呼びかけてゐる本書の内容は、修養書として好箇のものである。項を分つこと百、相連絡して一々首肯せしむるところがある。

甫守謹吾 現代の作法 菊判 布製 昭和 三三八 二、五〇 南光社

面白いといふよりは爲めになるといふのが本書の生命である。禮儀作法の本旨は道德的理論の説明を主とするものではなくて、生活上及び社交上に必要な實行的の言動を尊重するにある、とは著者の主張である。題して現代の作法といふ。

一一、宗教

新城新藏 迷信 四六判 洋布 大正 三〇四 二、五〇 興學會出版部

曆日方位卜筮等に關する迷信につきて、其の起原を明にし、之に科學的説明を與へたもので、今日猶存在してゐる迷信も、其の來歴を吟味して見れば、科學の發達しなかつた時代に發生して、邪道に踏み迷つたものの殘骸が因習となつて居るのである。といふことが明快に説かれてゐる。

宮崎安右衛門 草の上の學校 四六判 布裝 大正 二六六 二、〇〇 平凡社

武藏野の花笑ひ鳥歌ふ草の上に、神の愛に抱かれて、靜かに聞いた大自然の聲が本書

であるといふ。藏むる詩歌、文章悉く自然の讚美であり、愛の響である。少年にも少女にも、青年にも大人にも、面白く讀まれる本である。

前田慧雲 佛教思想講話 四六判 布装 大正 一五、二 二九七 二、三〇 甲子社書房

著者が各地で講演を試みたのを輯録したもので、通俗的に佛教思想の何物たるかを諒解する最良の書である。

高楠順次郎 宇宙の聲としての佛教 四六判 洋布 大正 一五、一〇 三〇一 二、〇〇 大雄閣

約二年間に亘つて現代佛教に連載した、二十四篇の論文を纏めたもので、佛、法、僧の三部に分ち詳説してゐる。殊に佛教研究者の知らんとする、佛教と耶蘇教、佛教哲學と西洋哲學、大乘佛教と婆羅門教の差異を明にし、現代青年の要求する、研究の佛教、律法の佛教、思索の佛教、冥想の佛教、信仰の佛教を打て一團となし、了解し易からしめんことに努めてゐる。

釋 宗 演 求めよ與へられん 四六判 布装 昭和 二、二 四四 二、五〇 中央出版社

明治大正に於ける一大善知識であつた、故釋宗演禪師の講演を集めたもので、言々句

々一として吾人修養の資たらざるはなく、悟を求めんとする者、道を求めんとする者の必讀書である。

高橋北堂 日蓮聖人法話集 四六判 洋布 昭和 三、一 三〇二 一、八〇 中央出版社

此書前半は日蓮聖人遺訓の中から修養の資となるに適した箇所を抽出し、後半は遺訓中極めて簡單にして修養の資となる語を抜き出し、之を敷衍し説明したものである。

高嶋玉泉 傳説に残れる高僧の生んだ奇蹟集 四六判 洋布 昭和 二、四 三三〇 一、八〇 中央出版社

津々浦々に残されてゐる傳説の中で、弘法、法然、親鸞、西行、日蓮其他幾多の高僧の生んだ奇蹟だと傳へられてゐるものを、作者の主観を通して物語風に表出したものである。

江原小彌太 神人記 (全) 四六判 布装 大正 一五、一〇 六五 二、八〇 文化生活会社

創作「舊約」の姉妹篇である。著者が經典三部作の第三部に相當するもので、作中の一節に「人生の究極は何ですか」「人間が神になり、此の世が神の世となることだ、」「そこに苦はありませんか」「生きて居る限りは苦があり樂がある。苦は悪であり樂

は善である。人間の究極が神となつても善悪はある。しかし善悪苦樂の中に囚はれてゐるのが今迄の人間で、それから超脱しようといふのが新しい人間で、それから超脱するのが神即ち神人である云々」とある。

グッドスピード著

佐竹直重譯 新約聖書の研究 四六判 布装 大正 一五、二一 三〇 二、〇〇 厚生閣

此の種の著書は歐米に於ては夥しい數に上つてゐるが、邦文で書かれたものには良參考書が乏しい。本書は一般讀者の爲に極めて平易に書かれたものではあるが、著者は深遠な學殖を以て居る人であるから、本書を眞面目に研究することに依つて、新約聖書に關する最新の一般智識が得られよう。又英語に親しみのある讀者は、卷末の參考書の中から適當なものを選択する便利が得られる。

賀川豊彦 神による解放 四六判 並製 大正 一五、七 三三 三五 警醒社

神による解放は同時に神に依つての救ひである。現在世の荒波に揉まれ／＼て苦み喘いてゐる人の多くに、神の愛と榮光とを感得せしめたいといふのが本書の内容である。キリストの偉大なる愛に浸らうとする人達へのよき手引きである。「傳道版」と銘を打つただけに文章も平易である。

三木羅風 修道院生活 四六判 並製 大正 一五、一 三三 一、五〇 新潮社

修道院が實際に行つてゐる生活と其の意義及び歴史とを知るには適當な書である。尙北海道の修道院に對する正しい理解を得させたい爲めに、仔細に其の實際と沿革とを叙し、且之に入院するに當つての必要條件をも述べてある。

賀川豊彦 暗中隻語 四六判 布装 大正 一五、二二 四一 二、三〇 春秋社

賀川氏の隨想録である。隻語一篇一頁を越ゆるものは少いが、その裡に限りない愛情と暗示とが表はれてゐる。讀者は一篇一文と我れ知らず讀み續けて行くだらう。そして前後に深い感銘なしには書物を閉ぢ得ぬであらう。暗中隻語二〇〇篇、默想餘録三一篇、冥想斷片五三篇、アンペラ御殿を中心として一六篇。外に小屋日記がある。

三、教 育

小川友吉 農村教育の新理想 四六判 布装 大正 一五、一〇 三七 二、一〇 厚生閣

著者は現今農村疲弊の諸相を述べ、其の原因は何邊にあるやに及び、種々の農村問題

農村文化の問題につき細説し、次に農村文化の樂園と謠はるゝ丁抹の農村教育を紹介し、結論として農村教育の新理想を提唱してゐる。

長田新 現代教育哲學の根 菊判 洋布 大正 一五、六 三四 三、〇〇 改造社

教育事實は千古以來の實在である。然し一時の思付きや氣まぐれでは處理出來ぬ。其所には深い根底があつて生れ出る。著者は本書に依つて、教育思潮を一貫する根本原理を闡明し、教育者の人生觀、社會觀の建設にまで導かうとの試みを目的としてゐる

篠原助市 教育學綱要 菊判 洋布 大正 一五、五 三六七 一、五〇 寶文館

本書は師範學校の専攻科用たらしめんとして生れ出たものである。簡にして要を盡し、教育學の全系を窺はんとするには好箇の指針書である。

佐藤熊治郎 現代教育思潮批判 四六判 洋布 大正 一五、一〇 一七六 一、五〇 目黒書店

始冲天の勢を示したものが暫くにして泡沫の如く消えて行く。之が現代の教育思潮界の實情である。此の如きは我が教育の實際界を健全に發達せしめたいと念ずる者から觀て、決して悦ばしいことではない。新しい花には舊い根幹がある。舊い根幹がある

から花が咲く。かうした見方から現代の教育思潮を的確に批判したのが本書である。

關屋龍吉 教育讀本 菊判 並製 昭和 二、五 三〇八 一、二〇 日本評論社

本書は教育行政の府たる文部省に在つて長く我國の教育に關與してゐた著者が、我國教育制度の現状を叙し、併せて愛兒を學校に送つてゐる父兄に對する希望を述べて、一般の家庭に教育第一精神を鼓吹する目的で筆を執つたものである。挿繪統計表等を多數に挿入して、實證的に記述してあるのが特色である。

大伴茂 教育科學の諸問題 測定・實驗・診斷 菊判 洋布 昭和 二、一 五〇〇 三、八〇 東洋圖書株式會社

本書の内容は、常識論でもなく、抽象的論說でもない。人性の測定、實驗、診斷の方法と結果とを科學的に處理する指導書である。現今兒童の學習指導が叫ばれ、或は又兒童の職業指導が、遠からず小學校に於ける重要な責務となるであらう今日に於ては教育者への好き伴侶といへるであらう。

鹿兒島登左 生活指導と訓練の 新研究 菊判 洋布 昭和 二、四 五三三 三、五〇 目黒書店

訓練に關しての研究書としては好箇のものである。然かも兒童の生活を直視して、彼

等の現在及び將來を指導する上によりよき訓練方法を説かんとするのが本書の目的である。

初等教育研究 兒童の實生活と訓 四六判 背洋 大正 二六八 二、三〇 目黒書店
會編 練 布 一五、九

編者日田權一教授のはしがきにいふ。「終日嬉々としてよく學びよく遊ぶ吾等の親しき子供達、彼等と共に學び共に遊ぶ中、吾等の眼に映じ耳に残つた彼等の生活を拾ひ集めたものがこの一篇である。」と。然し拾ひ集めた落穂ではなくて、讀んで行く大人をまで感激させる兒童の生活記録で、正に訓練の好資料である。

北澤種一 學級經營原論 菊判 洋布 昭和 二、三 二五六 二、八〇 東洋圖書株式會社

内容の一として學級生活に於ける社會心理、學級經營の方法、學級經營上の諸問題等がある。學級はその擔任者にとつては無二の故郷である。本書に依つて此の故郷の姿を明めるのもよいであらう。

千葉敬止 漁村の教育施設 四六判 洋布 大正 一五〇 一、三〇 明治圖書株式會社
成瀬涓 都市教育、農村教育………そして獨取り残され忘れられてゐるのは漁村教育である

漁村の過去と現在、漁村の將來と教育、漁村の教育施設、團體施設及び矯風施設を内容とし、附録として、國語讀本に現はれた水産生物教材一覽其の他を載す。

倉橋惣三 幼稚園雜草 四六判 背洋 大正 五〇四 二、五〇 内田老鶴園

著者は兒童心理學に就いての一方の權威者で、且女高師幼稚園の直接指導者である。本書前半は幼稚園を中心とした文學的作品ともいふべき愉快なもの、後半は幼稚園を理解せしめ幼兒教育の價値を力説した論文である。

成瀬涓 通俗町村圖書館の施設經營 四六判 洋布 大正 一四、一〇 三五〇 一、八〇 靜觀堂

大圖書館の施設經營は易いが、小圖書館のそれが困難である。町村の圖書館が實績を挙げ得ないのも夫が爲である。本書は通俗圖書館、兒童圖書館、巡回圖書館等の施設經營の良參考書である。

野口援太郎 高等小學校の研究 四六判 洋布 昭和 三六二 二、七〇 帝國教育會出版部

高等小學校は國民教育に於て重要な地位を占むべきであるといふ著者の考が、本書を生み出させた動機であつて、歐米の同程度の學校との比較、小學校の組織内容の研究

等に就いて説いて居る。

高橋勝 尋常小學新地理書 菊判 背革 昭和 七〇八 四、八〇 明治圖書株式會社

各挿畫を原據、筆者、説明資料の三項から詳細に記述してゐる。地理教授上好參考である。

岡山秀吉 新令準據高等小學手工科指導書 菊判 背洋布 大正 二九三 一、五〇 蘆田書店

著者は斯の科の權威者、説くところ懇切、多數の圖解を挿入して「指導書」の名に恥ぢぬ好著である。

岩井良雄 國語讀本國文學教材の解説 四六判 洋布 大正 三二 二、二〇 目黒書店

國語讀本に現はれた國文學教材の單なる説明でなく、一々典據を擧げ、教授者をして先づ古典的氣分に浸らせ、然る後學習指導の工夫を試みさせようとするのが本書の目的である。

杉浦源太郎 農業補習學校高等小學校實習指導の研究 四六判 洋布 大正 二九四 二、五〇 培風館

實習教育の理論と實際とを説き、熟練なる若き農業者を教育する工夫を述べてゐるが特に實地指導の方面に關しては、著者の經驗から極めて具體的に懇切な記述を試みてゐるのが本書の特色である。

田制佐重 小學校を中心とする理想的農村の建設者 四六判 背布 大正 三五一 一、八〇 株式會社文教書院

ハーバー先生は小學校を中心とする理想的農村の建設者である。アメリカのミズリ州ポーター村の學校はハーバー女史を迎へて僅々三年、學校そのもの、完全な社會化が行はれ、荒廢し切つた農村に生氣が蘇つて來た。本書は女史の學校經營法、農村指導の實況を詳述したものである。

大塚講話會 實演お話 第八卷下 四六判 洋布 昭和 四三三 二、〇〇 隆文館株式會社

同 第九卷 四六判 洋布 大正 三六一 二、〇〇 同

本書に載せられてある童話は、東京高師の大塚講話會に於て度々實演されたものを集めたので、之を讀む間に自然に童話の要領が會得される様に出來て居る。親、教師、其他童話實演者の參考書として最良の本である。第八卷下は青年處女に適したお話十

五篇を収め、第九卷はお話の仕方を詳細に書いてゐる。

四、文學・語學

宮島新三郎 大正文學十四講 四六判 洋布 大正 五〇六 三、五〇 新詩壇社

浪漫主義から寫實主義について自然主義を生んだ明治時代の文藝に對立、若しくは反對の位置に立つ大正文藝、それは新浪漫主義の文學、宗教文學、新理想主義の文學、新理想主義の文學、プロレタリアの文學等である。文壇評論の雄、宮島氏の筆に依つて、大正文學の真相が明にされたかの觀がある。

佐々木信綱 和歌に志す婦人の 四六判 並製 昭和 三三九 二、〇〇 實業之日
爲に

本書は和歌總説、和歌問答、和歌十二ヶ月、答問手簡、形管百人一首評釋の五部門から成る。單に婦人のみでなく、初めて作歌に志す人達にとつてのよき手引草である。

佐々木信綱 和歌の話 四六判 洋布 大正 三三〇 二、〇〇 岡村書店

本書は和歌の作法を説いたものではない。叙事、叙景、評論、感想等和歌に關する歌

人としての著者の隨想録である。

金子薫園 文藝入門叢書(10) 四六判 並製 大正 二〇 八〇 新潮社
作歌の第一歩

歌の民衆化、之が著者の主張で、本書は此の主張に基き誰が讀んでも分るやうに、誰でも歌が出来るやうにと説述したものである。

百田宗治 詩の鑑賞 四六判 布製 昭和 四三五 二、六〇 厚生閣

過去の詩人に薄く、比較的現在の詩人に厚く、明治大正二十八家の詩を評譯して、讀者と共に之を鑑賞しようと試みてゐる。作家の小傳を添えたのもよい。附録として百五十頁に近い「西歐近代詩の知識」がある。

白鳥省吾 詩の創作と鑑賞 四六判 並製 大正 四三六 一、八〇 金星堂

第一詩と時代、第二新しい詩の味ひ方、第三最近詩壇の問題、第四泰西詩談。第一、第三は評論と感想である。第二は代表的な現代の詩人の作を掲げて、同情のある立場からそれ等の詩を味はうとしてゐる。そのまゝ詩の境地にさまよふ心地がする。

西條八十 母性讀本7童謡の 四六判 洋布 昭和 二四四 一、六〇 文化生活
作り方と味ひ方 研究會

強いて作り方や味ひ方を説かぬのに、読んで行く中自分も可愛い子供の爲に謠つて見ようかしらんといふ心持の動くのが、本書の生命である。

三島海雲編 日本童謡選集 四六判 布装 大正 一五七 一、五〇 實業之日本社

北原、葛原、野口、西條の大家が全國小學校の兒童の作を選じたものである。

木枝増一 學習資料百科全書 四六判 布装 昭和 三三三 一、八〇 東洋圖書株式會社

兒童が讀んでは分るまいが、國文學を兒童に紹介するのに教師の參考書としてはよからう。

北原白秋 日本民謡作家集 四六判 布装 昭和 二、二 四七四 二、五〇 大日本雄辯會

明治大正を通じて五十五家百五十五篇の民謡を集録す。民謡は國民の魂の叫であり、國民の魂を培ふものである。本書も亦其の目的にかなふものである。

荻原井泉水 俳句の新しき味ひ 四六判 布装 大正 一四、一〇 三〇八 一、九〇 交蘭社

古人新人の句を一々拉し來つて俳句の味ひ方を教へてゐる。初學者のみでなく、俳句

愛好者を啓發する所多かるべし。

今井柏浦 增 俳諧例句 菊袖 洋布 大正 五七 二、〇〇 博文館
補 新撰歳事記 珍判

初學者は勿論句作に憂き身をやつす人の相談相手は何といつても歳事記である。此の書例句多くしてよし。殊に巻初索引及び分類を掲げたのは便利である。

横山青娥 詩人一茶 四六判 洋布 大正 三一 二、四〇 新生堂

一茶に深い同情と親みとを以てその一生を叙してゐる。あまりにも功利的な現代の世相に、此の書を投げつけた著者は「我々の無二の親友を諸君の傍へ送ることに無上の悦びを感じる云々」と述べてある。

臼田亞浪 最新俳句評釋叢書 菊袖 並製 大正 一六三 一、〇〇 資文堂
第十二篇 評譯 子規の名句 珍判

初子規の如何なる人かを紹介し、次で子規の句の評譯を試む。鑑賞の讀物としてのみでなく、讀む中に自然句作の要諦までが呑み込める。

木村半文錢 川柳作法 四六判 布装 大正 一五、九 四七 一、八〇 湯川明文館

川柳に作法などはと考へてはならぬ。文藝の中でも諧謔美を表示するものほど作成の動機が嚴肅なものでなくてはならぬと思ふ。川柳の眞價を味ふに適した書である。

相馬御風 一茶隨筆選集

四六判 並製 昭和 一八六 一、六〇 人文會出版部

本書は單に一茶の作品を紹介するといふことに止らず、著者の主觀を通した一茶鑑賞の覺え書ともいふべきものであつて、始めて一茶を研究せんとする人には最も良い本である。

チャールズ・ラム著

中村詳一譯

シエクスピヤ物語

四六判

並製

大正 一五、九

四六九

二、三〇

春秋社

シエクスピヤ物語は、沙翁の劇中より悲劇喜劇各十篇を選び、チャールズ・ラムと其の姉メアリ・ラムとが、若い讀者に沙翁の面白味を知らせ、又進んでそれを讀む手引にしようとして、姉は喜劇を弟は悲劇を擔當して、原作の複雑な筋を、平易優雅な物語としたものである。

そしてこれが又、英文學史上に立派な創作の一位置を占めてゐる。本書はその邦文譯である。

ストウ夫人原著 永代美知代譯 奴隸トム アンクル・トム・ケビン 四六判 洋布 昭和 二、一 六三六 三、〇〇 誠文堂
此の小説の名は原著を直譯すると、「トム爺の小舎」といふのであるが、トムといふ黒人の奴隸を主人公として、幾多のあはれな奴隸の涙の生涯を描き出したもので、奴隸廢止で有名な南北戦争の原因をなしたとまで言はれる名著である。

三浦關造 聖者あらたに生る 四六判 洋布 大正 一四、一〇 五三八 二、八〇 萬生閣

偉大なる聖者、日本が生んだ聖者、夫は金光教の教祖である。此の聖者の言行を中心とし、之に敬虔な人々を配して作り出された創作である。

中里介山	縮刷	大菩薩峠第一	菊袖	珍判	布裝	大正 二五、二	六九二	二、〇〇	春秋社
同	同	第二	同	同	同	同 二五、二	六四〇	二、〇〇	同
同	同	第三	同	同	同	昭和三、二	六七四	二、〇〇	同
同	同	第四	同	同	同	大正四、六	五九〇	三、〇〇	同
同	同	第五	同	同	同	昭和三、一	八七七	三、〇〇	同
同	同	第六	同	同	同	同 二、一	九四一	三、〇〇	同

十數年前都新聞に、今東日、大毎に發表してゐる創作である。取材の廣汎にして人物の多き、構想の雄、蓋し洛陽の紙價を高からしめたものゝ一である。奇劍机龍之助、彼を兄の仇とねらふ宇津木兵馬、怪賊、偉人、美女、妖婦もつれづれ今尙その歸趣を知るによしなし。

藤森成吉、加藤武雄、木村毅 農民小説集 四六判 並製 大正 一五、六 四五四 二、〇〇 新潮社
農民の生活を中心とせる、現代名家の小説二十篇を集めたもので、農村青年に愛讀される地味な小説である。

加藤武雄 長編小説 狂想曲 四六判 布裝 昭和 二、二 三三三 二、〇〇 實業之日
現代に最も多くそのタイプを見せてゐる黎明期の女性が、新しい光の搖曳を天の一方に望みながら、猶昨夜の闇に彷徨する様を描き出した長編小説で、若き婦人に多く讀まれる本である。

楠山正雄 御堂殿の子 四六判 並製 昭和 二、三 二六八 一、八〇 新潮社
御堂殿の子とは御堂關白道長の四男に當る藤原顯信（後出家して長禪）のことである

思ふことならざるなき道長の子と生れた顯信が出家した、それには深い因縁がなくはならぬ。そこに眼をつけた創作が本書である。あの時代に於いても得意な者と失意な者との葛藤、得意な者の背後に迫る無情、主人公顯信の心の動きは現代人の讀者にもはつきりと同感できる。

村上浪六 俠客神髓 妙法院勘八 四六判 布裝 大正 一五、二 三三七 二、三〇 講談社

近來俠客物が世にもてはやされる様になつたことは争はれぬ事實であるが、本書は俠客の神髓ともいふべき妙法院勘八を、著者獨特の筆法に依つて描き出したものである
小林鶯里 眞田の智謀 四六判 並製 大正 一五、三 三七三 一、三〇 文藝社

著者は各方面に亘つて青少年の讀物を公にして居られるが、殊に歴史小説は面白く讀まれるものゝ一つで、本書は亦その中の随一といつてもよい程のものである。

吉川英治 劍難女難 四六判 布裝 大正 一五、二 五五九 二、五〇 講談社

所謂大衆文藝とも稱すべき俠客肌の時代劇的作品二十一篇を収めてゐる。

堀内新泉 立志小説 全力の人上 四六判 並製 大正 一五、四 三三四 一、八〇 ヤナセ書院

堀内新泉 同 下 同 同 同 三〇〇 八〇 ヤナセ書院

同 立志努力の人 四六判 並製 大正 一五、四 三〇〇 八〇 同

同 立志愛郷記 四六判 並製 大正 一五、四 二六〇 八〇 同

著者は立志小説の大家として世の定評ある人である。前記何れも現代青年の愛讀する、ためになる小説である。

野口武美 運命の指輪 四六判 並製 大正 一五、三 二五五 一、五〇 甲子書院

奇しき運命の波にもまれる可憐なる少年小女と、善悪二神を表徴する不思議な指輪を中心とする、悲しくも亦面白い少年少女小説である。

吉田絃二郎 少年小説 栗の花の咲くころ 四六判 布装 大正 一五、七 三〇一 一、五〇 實業之日本社

芝太郎の手紙外數篇、童心を巧にとらへる筆致厭かず讀んでゆける面白い讀物である。活字が大きいのも少年讀物としては一の特色である。

吉田絃二郎 少年小説 小説かゝやく小川 四六判 布装 昭和 二、一 三〇〇 一、五〇 實業之日本社

仔馬は歸りぬ外十數篇、序にいふ「私は自然を愛する、私は自然によつて育てられてゆく少年の魂を愛する。少年よ自然のまゝに大きく伸びよ」と俗悪低級な小説は少年には害があつても益はない。家庭に於ても子女の好讀物である。

大久保 龍 戯 人としてのペ 四六判 洋布 大正 一五、一 四六二 二、八〇 大同館

著者がペスタロッチ先生に私淑するの餘り、如何にもして先生の人格の一端を立體的にあらはして、世の同好の士に紹介したい、との念願から書き上げたのが本書である。

五、歴史

大野延太郎 遺跡遺物より觀たる 日本先住民の研究 四六判 洋布 大正 一五、四 一九六 一、五〇 磯部甲陽堂

日本全土に亘つて出土した遺物遺跡を基礎としての先住民族の研究發表で、考古學及び國史研究者にとつてよき參考書である。風俗、體質、食物、漁獵、武器、裝身具、土器製法、原始宗教、船舶等は内容の項目である。

青木純二 アイヌの傳説 四六判 背布 大正 一五、五 三四 一、五〇 第百書房

著者が北海道各地を巡り、アイヌ研究中、古文書をあさり、或は親しくアイヌ部落の古老に聞いて得たる傳説を集めたものである。藏むる所二百餘篇、何れも滅び行く人達か、ありし世の生活を忍ぶに足る面白い話である。

堀江秀雄 幕末哀史 四六判 洋布 昭和 三三三 二、三〇 雄山閣

徳川三百年の惰性を破り、我が建國當初の精神にかへつて、皇室の爲め帝國の爲めに身命を忘れ、東奔西走した幕末志士の強烈なる犠牲的精神と、崇高なる情操と、至誠を以て一貫せる責任觀念は、實に見上げたものである。本書はかうした二十有餘名の志士につき、銘々傳的に叙したものである。

櫻雲閣主人 明治外交秘話 四六判 洋布 昭和 五〇〇 二、五〇 中外商業新報社

明治時代に我邦萬般の方面にわたつて異常な發展を遂げたものである。とりわけ外交に於ては人に知られぬ苦心がある。本書を讀むとき如何に國交の衝に當つた人達が苦心したか、窺ひ知られる。同時に愛國とは如何なるものかも感得しうる。

川崎久敏 獨力奮闘東西名士立志傳 四六判 並製 大正 三六八 一、〇〇 朝日書房

男子苟も生を此世に享けた以上は、堅忍不拔の精神と剛毅不屈の意志とをもつて、勇往邁進必ずや何等かの鴻業を遂げ世に貢献せねばならぬ。本書藏する所の現代東西名士五十有餘が奮闘の経路、青年子弟が立志發奮の生きた資料として十分なものである

井口丑二 大ニ宮尊徳 四六判 布裝 昭和 五九八 二、八〇 平凡社

二宮翁の人物思想及び事業の各方面に亘つて、其の真相を明にし、之を如實に發表して、所謂報徳主義を鼓吹し、行き詰つた現代生活の苦境から救ひたい、といふのが本書編纂の大使命である。

太田正孝 町人諭吉 三六判 布裝 昭和 三三六 一、八〇 寶文館

明治の初頭に於ける先覺者の一人は福澤諭吉翁であつた。明治文化史上、翁が演じた役割は目覺ましいものではなかつたかも知れぬが、重要なものであつた。本書は翁の眞骨髓を描出して餘蘊なし。

麥田三四郎 近世刺客傳 四六判 並製 大正 三六三 一、六〇 東京弘文社

明治維新を中心として前後に活躍した刺客の苦心を叙したもので、當時の時代相がよ

く闡明せられてゐる。

鳥海良邦 南洲翁遺訓集並翁 四六判 洋布 昭和 二、一 三四 一、五〇 行地社出版部

南洲翁を以て單なる英雄豪傑として目するは誤つてゐる。翁は實に王佐の大材徳を備ふる絶代の賢人なることは本書に満載せる遺訓に依つて窺ふことが出来る。

江東天風 大西郷言行録 四六判 布装 大正 一五、九 三〇六 一、八〇 中央出版社

大西郷逝いて五十年、群小輩出の世相を見るとき英雄の出現を想ふ。本書は單なる言の記述でなく、一篇の傳記である。南洲翁たり得ずとも、郷黨に重きをなす人あるとき、郷土は泰く國家は榮える。

大島輝久 乃木大將言行録 四六判 洋布 昭和 二、一 三〇〇 一、八〇 中央出版社

俯仰天地に耻ぢず、正々堂々として純忠無比なること楠氏に譲らず、國民的精神を遺憾なく發揮し、百世の師表として仰がる、乃木大將の一言一行、悉く赤誠の迸り出たるもので、本書を讀む者奮起せざるなし。

澤柳政太郎 ペスタロツチ 四六判 洋布 昭和 二、二 二九三 二、四〇 帝國教育會出版部

ペスタロツチ先生の百年忌に際し、我教育界の最大權威者であつた澤柳博士が、若い時分にペスタロツチ先生の絶大なる教育精神と、其の徳行とに感激せる餘り書き上げた論文を、そのまゝ公にされたものである。

佐野甚之助 ガンデイと其思想 四六判 布装 昭和 二、三 二七二 一、五〇 立命館大學出版部

印度に生れ出た偉聖ガンデイの思想を知らんと欲する人々の爲めに米國教界の名士ホームズ氏のガンデイ論及びガンデイ自身の筆に成れる倫理教、その他を譯述したものである。釋迦を生んだ印度は又こゝにガンデイを生む。

山田少佐 立志物語 四六判 洋布 昭和 二、二 三三三 一、三〇 山田出版株式會社

世界産業界の俊傑自動車王ヘンリーフォードが、丁稚小僧を振出しに、あらゆる艱難と戦ひ、辛苦を嘗め盡したる奮闘の歴史は、本書に依つて、讀者の若き血潮を湧かしむるであらう。

六、地 理

満川 龜太郎 世界現勢と大日本 四判 布装 大正 一六四 一、〇〇 行地社出版部

世界は刻々に動く。昨の世界は既に今の世界ではない。吾人は常に世界の現勢を察し、大潮に乗じ大機を把り大義を布くの覺悟を持つてゐなければならぬ。本書は世界の現勢とその中心に座せる我日本との關係を明に教へたものである。

田中 寛一 日本民族と將來 四判 布装 大正 二六六 二、三〇 培風館

日本民族の優秀なる所以を之ほど學術的に實證的に論じたものは珍らしい。單なる獨りよがりてなく、或は身體的方面から或は精神的方面から日本民族の特質を闡明して讀者を首肯させる好著である。

秋鹿 見一 日本物産の由來 三判 背洋布 大正 二九四 一、五〇 敬文館

我が國の物産が如何なる原因によつて如何なる變遷を経て今日の狀態に達したものであるか。又如何なる苦心と如何なる改善とを加へ、如何に盛衰して現狀に及んだものであるかといふ様な由來を明にしたもので、産業振興上必讀の書である。

山崎 直方 我が南洋 四判 並製 大正 三二一 一、八〇 廣文堂

著者がマリアナ東カロリン並にマーシャル諸島を巡遊した瞥見記で地理學上より見たる南洋を極めて平易に紹介したもの、事業家にも多分の暗示を與へる本である。

佐野 惠作 宮城を拜觀する人 四判 洋布 大正 二〇〇 五、〇〇 蘆田書店

宮城拜觀者の手引となる事項を書いたもので、宮城に日夕奉仕してゐる著者が手にとる如く説述して、宮城の莊嚴美と豊かな情趣とを説明してゐる。恐らく讀者は此の書を読むことによつて未だ拜觀せざるにその美その情を味ひ得るであらう。

竹内 逸 支那印象記 四判 並裝 昭和 三五六 二、八〇 中央美術社

前後二回支那へ旅行した印象記で、邦畫の巨匠たる著者が見た支那見物の印象は北方よりも南方に多い。藝術上よりの支那風物記として價値がある。

寺尾 幸夫 露支人に伍して 四判 背布 大正 二六八 二、〇〇 寶文館

人口過剰に苦しむにいたらない。日本人の住み得る天地は手近の大陸にある。かうした見地から新聞記者としての著者が遠大の抱負の下に遠慮なく赤裸々に露支人の生活と滿蒙の事情を説いてゐる。

根本十郎 日本式に世界を歩く 四六判 布装 昭和 三三三 二、〇〇 東京 榎本書房

著者の歐米漫遊記、其の見聞する事象に對し著者一流のメスを振つて批判してゐる所に痛快味があつて、思はず巻末まで讀ませられる。

北原俊子 子供の見た歐羅巴 四六判 背布 大正 二六二 一、八〇 寶文館

俊子さんは尋常六年の夏おとうさんにつれられて歐洲旅行、その見聞記が之である。『ときわといふ料理屋—お豆腐まである。日本の料理屋より遙に安い。お醤油やお米を日本から運んで来てこんなになく出来るなら日本の料理屋はどんなにもうけるものかと思つた』子供の率直な觀察は寶玉そのものである。

七、法制

西野雄治 政黨とは何ぞや 四六判 布装 大正 二〇〇 文化研究社

現在我國に於ける政黨の實情を指すものはいふてあらう。政黨とは利權獲得者の集團なりと、本書はかうした人の、またかうした政黨の迷妄を啓發すべく政黨の本質、

機能を解明し、政黨に對する正しい理解を與へるに違ひがない。

梶 康 郎 註 釋 陪審法要覽 四六判 洋布 大正 四七五 三、五〇 帝國講學會

陪審法は明年度から實施せられる司法上の大變革で、人のこととなく我が事である。誰もが心得てをるべきは陪審法である。本書は各條文に亘つて註譯を加へたもの、將來の健全なるべき青年の必讀書である。

尾崎行雄 普選讀本 菊判 並製 大正 二〇六 一、〇〇 模範圖書刊行會

林田龜太郎 國民が多年熱望してゐた普選法は實施せられることになつた。著者は選舉權を得た人々に普選法を咀嚼して、其の精神のある所を會得せしめようといふのが此の本の眼目である。

須磨彌吉郎 戰後十年の國際政局 四六判 洋布 大正 五五五 三、五〇 寶文館

大戦前後、國際協調と新形勢、列國の國際問題、帝國の地位と東洋文化外交、獨逸共和國等數篇、現在動きつゝある世界の大局を掌上に指示するが如く述べてをる。邊土の一農民といへども尙世界を知らずしては、今日の日を有益に生かし得ぬ現代に於

ては正に讀むべき書。

村田宇一郎 地方改良之事例 四六判 並製 大正 一五、九 二五七 一、五〇 中央報徳會

地方改良の實例を多數に記述して、その道に志すもの、參考として居る。民によらずんば國興らずといふことは空言ではない。眞劍になつて地方改良に盡力すれば、飢なく愁なく、只幸福と安心と満腹あるのみ。

上杉慎吉 政治上の國民總動 四六判 並製 昭和 二、二 三三六 一、〇〇 日本學術普及會

著者過去十年間の普通選舉に關する論文講演の内から、目ぼしきものを採つて集めたものである。收むる所、十有三篇。

末弘嚴太郎 民法講話(上卷) 四六判 布裝 大正 一五、六 三六六 二、三〇 岩波書店

同 同 (下卷) 同 同 昭和 二、九 三五六 二、二〇 同

法律と聞くと無味乾燥のやうに思はれるが、本書は民法の學理的原理及實際問題を、著者の深い思索を通して、思想的に興味ある筆致で講述してあるから、民法に關する理解を得るのみでなく、又思想講話を聞くの想あらしめる。

八、經濟

野田兵一 經濟銀行の話 四六判 並製 昭和 二、五 二〇七 六〇 文明社

銀行に就いての知識がないと、所謂取りつけ騒などで青くなる。國民一般銀行とはどんなものか、どんな仕事をするものかを心得ておく必要がある。

東京朝日新聞 金と物どう動く? 四六判 背洋 大正 一五、二 三三三 一、八〇 日本評論社

經濟學の原理を解くのではなく、金と物との動き方に就いて細大漏さず解り易く、經濟事情を會得させるのが、此の書の使命である。人は金だけで動くのではないが、生活の半面は之なしには不可能である。誰しもが心得置くべきことである。

東京朝日新聞 經濟隨想 四六判 布裝 昭和 二、五 三三八 二、〇〇 日本評論社

本書はあらゆる世相を代表せる人々の感想と筆致を縮寫せるレンズの感がする。東京朝日新聞に連載せられたる經濟隨想、前後約百篇を集めたものである。

農村黎明會 農村經濟叢書² 農業金融の話 四六判 背洋 大正 一五、二 一七三 八〇 文教書院

土地有つて金の無いのが農村である。然し金融如何に依つて、より一層土地の利用を完全にすることが出来る。農業倉庫、信用組合等多數に亘りて農村の金融を説く。

農村黎明會 農村經濟叢書1 四六判 背洋 昭和 一八〇、八〇 文教書院

通俗的な農村經濟叢書の一で、農村の人に讀んでもらひたい經濟學の本である。生産交易、分配の三大綱に分けてゐるが、微細な事に亘つて平易に説いてゐる。

農村黎明會 農村經濟叢書4 四六判 背洋 昭和 一四六、八〇 文教書院

通俗的な農村經濟叢書の一である。米の生産、消費、品位、取引等の問題より、農業倉庫の經營、米價調節、米と人口問題等、米に關する一切の問題を懇切に説いてゐる

佐藤寛次 増訂農家の簿記 菊判 洋布 昭和 二〇八、一、九〇 成美堂書店

一家經濟の消長を明にし、其の事業の盛衰を一目瞭然たらしむる上に、簿記は極めて必要なことである。本書は穀作農家、養蠶家、園藝家、養畜家等の爲めに、簿記の一般を説いたものである。

九、社會

小野武夫 農村社會史論講 菊判 洋布 昭和 三三五、二、八〇 巖松堂書店

本書收むる所の論講は著者の曾て中央公論、法政大學論集、社會政策時報、其他に執筆されたもので、論旨は概ね通俗的で、考證も説明と解義に重きを置いてゐる。

富田文雄 農民讀本 菊判 並製 大正 一五〇、七〇 米本書店

著者はさきに「新農村の建設」を書いてゐる。本書は著者が農村の振興に關し、經濟、文化、政治の三方面から見た一般方策を具體的に叙述したものである。

田制佐重 社會思想讀本 菊判 並製 昭和 三六六、一、三〇 文教書院

現實の社會生活は如何なる組織に成立つてゐるか、この根本の原理原則を正當に理解し、それに依つて吾々も互の社會を如何に改造すべきかの理想と、目標とを打ちたてやうとするには、先づ以て互は社會思想の本質を明かにし、且それに對して公平合理の批判を下すだけの用意がある。著者はそれ等に就いての抱負を本書で披瀝してゐる。

る。

四〇

農村黎明會 農村經濟叢書3 産業組合の話 四六判 背洋 昭和 一四九 八〇 文教書院

日本人は協同といふことを面倒がる悪い癖である。抜けがけの功名、之が武士の誇であつた。産業組合はその利益大なるにもかゝらず、我が國に十分の發達を遂げかねるはこの爲である。本書委曲を盡して組合の長所を説く、必讀の書。

帆足理一郎 婦人解放と家庭の 四六判 洋布 大正 一五、八 四〇〇 二、四〇 博文館

著者は國民生活の改善のために若き女性の自覺と奮起とを念頭して止まず、嘗て「婦人問題評論集」中に採録されたものであるが、舊著を絶版として、其著として本書を公にしたのである。

稻葉幹一 我子の職業 四六判 布装 大正 一五、七 五五 三、五〇 山海堂出版部

兒童を持つ父兄、職業紹介者、教師、團體指導者、雇傭主等の参考書となる。職業とは何ぞやを説き、その選擇、その適性を解く。儲かる職業ならば、と猫も杓子も馳せ參ずるから、失意と不幸とが待ちかまへて居るのだ。職業指導は父兄と教育者の重大



責務である。

帆足理一郎 社會文化と人間改造 四六判 洋布 大正 一五、七 四三三 二、四〇 博文館

社會主義共產主義が要求する社會の非合理性、反人間性を説破して、新時代の要求する理想の社會を説き、最後に社會改造の根本原理を人間改造にありといふ。

一〇、理 學

寶來勇四郎 電氣讀本 菊判 並製 大正 一五、四 三三三 一、〇〇 寶文館

電氣事業は今や投資額二十數億圓に達し、國民生活の必需品であると共に、駭々として進歩發達の止まる所なく、國民の一日も缺くべからざるものとなつた。本書は電氣常識を一般國民に知らしめて、科學思想の喚起に努めようといふのが骨子である。

今井 紀 素人に作れる無線電話の實驗 四六判 布装 大正 一五、二 二七〇 一、七〇 主婦之友社

本書は雑誌「主婦の友」に約一ヶ年間、自由なラヂオの作り方とそれに就いての種々な知識を宣傳した記事を集めたもので、それに對して讀者の一萬近い質問に對する答

をも合せて書いてゐる。ラヂオ入門の好手引である。

梶間百樹 天氣と天氣豫報 四六判 洋布 大正 一三 一、三〇 古今書院

中央氣象臺技師の著者が、常識的に氣象のことを書いたもので、小學卒業程度の人でも、さうむづかしくなく讀める良書である。

藤原咲平 雲を掴む話 四六判 布装 大正 一五、三 三五 二、三〇 岩波書店

通俗科學叢書の五編で、大正十四年九月東京日々新聞に連載したものを補足したものである。

澤村 眞 食物化學講話 菊判 洋布 大正 一五、一〇 二九四 二、五〇 隆文館株式會社

生理化學即ち人體の肉なり骨なりは如何にして、如何なるものから成るかを説き、次に食物の化學につきて明快に詳細に説いてゐる。「味噌汁はソツブよりも滋養價が多い」と聞いては西洋かぶれの養生論者は一本參る。

西澤勇志 科學文化叢書 文化人の化學 四六判 洋布 大正 一五、一 五三四 三、八〇 集成社

良子さんが小學校への入學から筆を始めて、其の弟正ちやんが大學を卒業して一人前の技師になるまでの物語の中に、化學の常識、實驗室から段々と工業化されて行く化學の道筋、世を文化へと拓いて行く化學の成績を面白く説いたものである。

小野 進 自然と國寶と日本人 (全) 四六判 洋布 昭和 二、四 二二〇 二、〇〇 ウララ社

全国各地に亘り、自然の國寶である天然記念物につき説明を加へ、おのづから其の保存上に注意を促してゐる。動物、植物、礦物、反省と修養、愛護、自然の國寶の六篇に分ち、頗る趣味を以て讀まれる本である。

一一、醫學

小酒井不木 鬪病術 四六判 布装 大正 一五、九 四六八 二、五〇 春陽堂

肺結核になやむ人々の上に慰安と勇氣とを與へ、從來の唯物治療法の爲めに犠牲となつてゐる患者を救ひたい念願から、あらゆる方法を叮嚀に親切に説いて居る。鬪病の話、如何に患者を力づけることだらう。

小田俊三 呼吸器病の豫防と手當 四六判 洋布 大正一五、八 四二〇 一、八〇 博文館

我國に於て呼吸器病で死ぬ者は、最近の統計に依れば、一ヶ年二十萬に上り、其の約半數は肺結核である、といふことである。本書は呼吸器の解剖生理及び衛生より説き起し、呼吸器病の豫防法と手當法を説明し、殊に肺結核に就いては最も詳細に説述してゐる。

小田俊三 消化器病の最新療法 四六判 洋布 昭和二三、三 三七〇 一、八〇 博文館

健全なる胃腸は、食物をよく消化するばかりでなく、あらゆる病氣に對する抵抗力の基本になる重要な機關である。本書は消化器の解剖、生理、衛生より説き起し、日常人々の屢々遭遇する消化器病に就いて、その原因、症狀、豫防法、並に最近の治療法を、つとめて平易に述べた通俗的療養書である。

大友 豊 家庭按摩讀本 四六判 並製 大正一五、二 二〇〇 八〇 廣文堂書店

現今の醫學に於て、按摩術及びマッサージが物理的療法の一項として必要缺くべからざることは周知の事實である。著者は通俗的に一般家庭の應用に便じた書物の無いの

を遺憾とした記述したもので、一般公衆の健康の増進、並に國民活動の能率高昇に向つて一大貢獻あるべきは事實である。

高田義一郎 子供の衛生 四六判 布裝 昭和二三、四 二三八 一、二〇 アルス

愛するに道を以てせぬ爲に、大事な子供を精神的にも身體的にもそこねて終ふ例が多い。而かも子供は病の巢である。幼少なるもの、衛生を如何にすべきか、之は世の父母が第一の關心事、本書よくその道を教ふ。

大野潤一郎 醫師を迎へるまで 四六判 並製 昭和二三、四 一五四 一、四〇 文化生活研究會

本書は内容を準備と應用に二大別して、これまで等閑に附せられた準備の項に充分に説明を加へ、應用に到つては至極平易に書いてゐる。素人が其場に臨んで應急の處置が少しでもうまく出来るやうにといふことを主眼としてゐる。

平井文雄 家庭看護の心得 四六判 布裝 昭和二三、四 三五三 一、八〇 實業之日

長岐佐武郎 家庭看護の心得 四六判 布裝 昭和二三、四 三五三 一、八〇 實業之日

まで意をくばつてゐる。

一二一、工 學

大日本工業新 最新機械工學讀本 四六判 洋布 大正 二九 一、六〇 文録社
興會 圖解

本書は機械の智識を求めんとする人は勿論、工業界殊に機械工業界に活動せんとする人、現在活動してゐる人に、機械工業の確固たる實用的知識を與へんが爲めに編纂されたもので、平易なる力學の理論より始め、漸次機械工業の理論及び其應用を説明し以て容易に斯學の一斑を理解せしめ、これを充分に實用する事の出来るやうに書いてゐる。

時事新報社 家を住みよくする 四六判 布裝 昭和 二、三 四四九 三、〇〇 文化生活
家庭部編 法 研究會

宏壯な家必ずしも住みよからず、華美の家また然り。九尺二間の掘立て小屋でも工夫一つで住みよくなる。光と熱と色と風との取り合はせて、如何に住みよくなるかを挿入圖の助をかりてよく説明しておく。

一二二、交 通

石井 滿 鐵道讀本 菊判 並製 大正 一八八 一、〇〇 日本交通
學會

鐵道は長足の進歩を遂げて、今や日本一の大きな仕事になつてゐる。國が榮えてゐるか否かは、鐵道が發達してゐる程度で知られる。然るに従來鐵道といふことを兎角幅が狭いやうに思はれて來た。これは要するに鐵道常識が社會に行きわたらないためである。著者はその點に着眼して此の本を書いてゐる。

松平 義雄 フォード自動車の 四六判 洋布 大正 一五、六 四八九 二、八〇 大阪
弘文社

最近我が國に於ける自動車界の發展は實に目醒しいものである。然しこれも世界の文明國に比すれば未だく及ばない。一部の人士の間には自動車に對する知識は驚く程普及して來たが、未だ一般の常識とまでは行かない。本書はフォード自動車の操縦、修理、ガソリンモーター一般の原理等を平易に餘す所なく記述してゐる。

天野 捨吉 常識として知り置くべき航空機と航空の話 四六判 並製 昭和 二、四 三〇八 一、三〇 朝日新聞
社

種類、構造、飛行の原理、飛行機の安定、發動機、その他航空機に就いての種々な事柄を解り易く述べてゐる。大平洋横斷熱も盛な今日之等に關する知識は誰しも有つべきである。

岩田 巖 傳書鳩 四六判 洋布 大正 一五、二 三四 一、八〇 科學知識普及會

著者は陸軍騎兵少佐で、我が陸軍に於ける軍用鳩研究の第一人者である。鳩の外貌と雌雄鑑定法、傳書鳩の飼育訓練法等、世界各国の養鳩者間にも解決のつかかなかつた所まで研究發表してゐる。傳書鳩研究者の唯一の資料である。

一四、兵 事

成田 篤 縱横漫談 陸海軍腕くらべ 四六判 洋布 昭和 二、五 三三三 一、八〇 大日本雄辯會

軍事書といへば難解無趣味なものと、大體相場を極められてゐるのに、これはまた興味津津たるものである。軍情の表裏を内外から縱横に卒直に説明し批評し去りたるどころ、大いに推奨に値すると思ふ。

伊藤政之助 戰術戰史講話 菊判 布裝 大正 一五、三 三四 二、三〇 同文館

古今東西の戰術についての批判であり、紹介である。著者は商科大學の配屬將校として、學生に講じた戰術戰史軍制を此の書としたもの、中等學校生にも亦興味ある書物である。

伊藤正徳 想定敵國 四六判 布裝 大正 一五、九 三五七 二、〇〇 佐々木出版部

海、陸、空、總ての軍備は、其の充實も縮少も、根底は必ず想定敵國に基調せねばならない。然るに未だ是に關する文献の少いのは識者の深く遺憾とする所であつた。本書は恐らく斯種の創意であり、開拓の最初のペンであらう。單に軍人のみならず、一般國民必讀の一書である。

一五、美 術

稻森縫之助 兒童への美術講話 四六判 布裝 大正 一五、五 三九三 二、九〇 集成社

東西洋の繪畫彫刻について極く平易な言葉で話しかけてゐる。挿畫も可成あり、兒童

へのみてなく、大人にも益するところ多き書である。

後藤福次郎

圖書の學び方と描き方

四六判 並製

昭和 三

一五三

、八五 文教書院

これ迄は大人が讀む爲めに書かれた圖書教育の本は澤山あるが、少年少女の爲めの此の種の本は少い。本書は極めて平易に懇切に圖書の學び方を、若き子女達に教へてゐる。

日上翠風

子供に描ける 日本畫の描き方

四六判 並製

大正 一五、六

一八五

一、五〇 誠文堂

本書は素人であつて、娛樂半分に日本畫を描いて見ようとする人々、及び少年少女達が日本畫の稽古を始める手引として書かれたものである。來歴、學習法、用具等より畫法の極意まで平易に簡明に説いてゐる。

東京洋畫

誰にも出来る 研 究 會 洋畫の描き方

四六判 布裝

昭和 三、六

一六三

一、五〇 富文館

水彩科、素描科、クレヨン畫科、油繪科、額椽製造法の夫々について懇切に説いて居る。

一六、體育・娛樂

寺 田 瑛

僕等のスポーツ

四六判 並製

昭和 一

二七七

一、六〇

成運堂書 店

詩人、畫家、記者、學者等あらゆる方面の人々に依つて觀案せられたるスポーツ觀を集めたもので、スポーツを以て立つ者、スポーツ指導の任に當るもの、將に一讀すべき趣味タツブリな本である。

森 秀雄

プレーする人の爲の野 見物する人 球の知識

四六判 布裝

大正 一五、七

四五

二、三〇

南海書院

プレーする人、審判する人、見物する人の爲の野球の知識。當事者にこの知識は勿論必要だが、見物する人に之に關する知識のあるなしは興味の上に大なる差がある。圖解豊富此の書一冊野球通たること疑なし。

近衛直麿

壯快なるスキー術

三六判 布裝

大正 一五、一

一五五

一、三〇

實業之日 本社

疊水練といふ語もあるが、此の書は多數の説明圖が挿入してあるので、讀者に十分スキの操縦法をのみ込ませる。雪の深い地方の青年には冬季の運動として最も適した

スキートの参考書となる。

鐵道省 キヤムピングの仕方と其場所 三判 布裝 大正 一五、六 二四五 一、三〇 實業之日 本社

キヤムピング即ち林間山野のテント生活は限りない興味と學術上の貢獻と、健康上に偉大なる効果を齎すことは何人も知つてゐる所である。本書は鐵道省が幾多經驗家の體験を參考して實際的に編纂したもので、青少年團、學校等には缺くべからざるものである。

東京かるた會 百人かるたの話 四六判 並製 大正 一五、二 二六八 一、八〇 東京圖案印刷株式會社

室内遊戯として老若男女を問はず最も普遍的な而して高雅なる趣味を持つてゐるものはカルタである。本書は斯道大家の分擔執筆に成れるもので、説く所一々必勝の秘訣である。

一七、産業

武藤山治 實業讀本 菊判 並製 大正 一五、一 二六 一、〇〇 日本評論社

明治維新以來長足の進歩を來した物質文明の半面には精神文明の萎微を來し、我が國古來の武士道も失はれんとしいる。著者深く之を憂へ、所謂實業精神の鼓吹をなし此の缺陷を挽回せんが爲に本書を公にせられたものである。

太刀川平治 農村と電気 菊判 洋布 大正 一五、六 二二六 二、五〇 丸善株式會社

農村の電化といふことは單なる理想ではなくして最早具體化されつゝある所である。本縣の如き地勢その他の關係から、將來此の問題が産業發展上益重要なものとなると思ふ。本書は農村に於ける電気應用の一般を詳説して餘す所がない。

森 司 六 農業機械學 菊判 洋布 昭和 二、一 四〇七 四、八〇 成美堂書店

農村に於ける生産能率を増進せしむるには農業器械の發達普及を計らねばならぬ。然るに従來斯の種の研究が比較的閑視せられてゐたではあるまいか。幸ひ本書は各種農業器械につき其の構造機能を懇切に説明した稀に見る良書である。

横井時敬 小農に關する研究 菊判 布裝 昭和 二、五 二六六 二、五〇 丸善株式會社

我が國は小農國である。此の研究は我が國農業の根本問題を對象とし其の經營の根本

義に及んでゐる。農家の人達にとつて好箇の参考書である。

渡邊幸吉 簡易農用藥劑 四六判 布裝 大正 一四三 一、〇〇 養賢堂

此種の本は從來藥品使用の結果にのみ重きを置いて説かれた爲に、藥劑本來の化學的性能を十分發揮せしむることに遺憾の點が多かつた。之に鑑み著者は專攻の化學を土臺とし藥品の性能及反應に重をおき、害虫や病氣に對する使用法を説くことに苦心してゐる。

伊藤帷吉 趣味の副業叢書第六編 鶏の飼ひ方 四六判 布裝 昭和 二、二 三七 一、五〇 文化生活研究會

出来るだけ判り易く實際に應用し得る事のみを選び、理論的の事は成べく簡單にしたのが本書の特色である。殊に一般的に必要な孵卵育雛飼養管理に關することに重きおいて説いてゐる。

坪根藤次郎 秘訣百話 實利主義の養鶏 四六判 並製 昭和 三、二 二六八 一、三〇 博文館

秘訣百話と銘をうつてある。養鶏農の實現化鶏種の選擇蕃殖についての研究、多産鶏作出の研究等數十百項。冬期副業の選擇に苦しむ本縣人には何等か教ふる所多かるべ

き書である。

中村八郎 多産雞の最新飼養法 四六判 洋布 大正 一四、九 一九八 一、五〇 實業之日

標題の通り多産系統の鶏飼養法について説いてゐる。殊に人工光線の使用人工的加熱等の新しい方法にまで觸れてゐる評判のよい本である。

東都家禽會 病鶏の手當と其良 三六判 布裝 大正 一五、二 一四三 一、五〇 大東書院

最近の統計によれば我が國に於て手當不十分のために斃れる病鶏の數は一ヶ年六百萬の多さに達するといふことで養鶏家折角の苦心が一朝にして水泡に歸することが珍らしくない。本書は之が救済上唯一の手引草となる良書である。附録として雛鳥の飼育と手當法をのせたポケット入輕便小形のものである。

長尾秋雄 趣味の副業叢書第一編 養兔の手引 四六判 布裝 大正 一五、七 一七九 一、五〇 文化生活研究會

近來養兔が家庭の副業として注目される様になり、兎毛皮は海外の市場に迄其聲價を博してゐる有様であるが、本書は其副業養兔の手引として之が經營上是非とも知つて居らねばならぬ事項を生産から販賣まで細大もらさず書いてある。

笹澤三善 水産王國

四判 洋布

大正

一五、二

言一 二、三 寶文館

我邦水産に關する重要な事柄を細大洩れなく説いてある。陸を追はれた日本人よ、海に未來の望をかけよ。食糧問題のさし迫つてゐる今日に於いて本縣人は宜しく三陸の大漁場に眼をむくべきである。

大村清友

趣味の副業 食用蛙 飼ひ方 賣り方 料理法

四判

布裝

大正

一五、一〇

三四 一、八〇

文化生活 研究會

趣味の副業叢書の一で、最近著しく常用される食用蛙の飼ひ方賣り方料理法について述べたものである。

加賀谷林之助 一般商業常識

四判

洋布

昭和

二、五

一九六 一、三〇

先進堂書店

商業界に活躍せんとする人々に商業上の知識が必要なることは勿論であるが、商業が他の職業に關係が深いだけ一般人としても常識として一通り心得ておかねばならぬ。本書は商業一般の知識を簡明に説いてあるから當業者にも素人にも向く本である。

堀田東涯

是非心得置くべき 商人成功の羅針盤

四判

洋布

大正

一五、一三

二〇 一、三〇

鴻文社

本書は商人たらしとする青年諸君の爲に是丈は是非心得ておかねばならぬと思ふ商業上の知識、即ち實際に當つて商賣をするに必要なる事だけを選択して平易に説いてある

澁澤榮一 商人讀本

四判

洋布

大正

一五、三

三三三 三、三〇

第百書房

實業界に志す青年が如何にして業を修め世に處し身を立て、行くべきかは今や餘程眞面目に考へなければならぬ時代となつて、世の風雲に乗じて一攫千金を得んとする投機的な考を許されない。本書は全編を通じて現代十三名家の血と汗との活教訓であつて青年實業家の好羅針盤である。

東京朝日新聞 社經濟部編

經營百態

四六判

並製

大正

一五、三

三四 二、〇〇

日東評論社

書名の示す如く色々の商業について千狀萬態に經營振を叙述したものである。經營上の理論でなくして事實を事實として有のまゝに説明し、現代經濟社會の動的一面を知るの資に供せんとしたものである。

科學知識普及會編

最新化學工業概説

菊判

洋布

大正

一五、三

四六〇 三、〇〇

科學知識普及會

本書は科學知識普及會に於て一般人に化學工業の概念を傳へ、之を了解せしめんが爲

に、各専門權威者に依囑して執筆したものを編纂したものである。然し平易通俗を旨としてゐるから誰にても判る。

安谷寛一譯 フア 化學工業の話 四六判 布装 昭和 四九 二、五〇 アルス

書名のいかついに似ず内容は化學工業の全般に亘つて少年を相手の話風に出来てゐる。ポオル叔父さんは幼い甥達を相手に、子供にも味はへる様な通俗的な實驗をして見せながら、日常絶えず使はれる重要な品物の起り、拵へ方等のお話をしてゐる。

高橋榮五郎 農 村工藝の奨励と實際 四六判 布装 大正 一五、七 三〇二 一、八〇 寶文館

著者は農村不振の最大原因を農村に於ける生産消費の不均衡にありとし、之が救済策は農村の工藝化にありとし、農村に適する工藝の實際及其の奨励の實例をあげて各種の場合について説明してゐる。特に農村學校の工藝につきては最良の参考書といへる。

一八、家政

内務省衛生試験所東京商工館調査 榮養研究と日用品 見わけ方買ひ方 四六判 洋布 昭和 二、四 一四三 八〇 文録社

各種の食料品につきその鑑別法を詳説したもので、巻頭には食料品分析表を圖解して示してゐる。記述は通俗平易を旨とし、食料品に關する常識養成上購讀をすすむ。

石黒退三 臺所の科學 四六判 洋布 大正 一五、四 三六五 二、〇〇 織田書店

榮養論食品の種類及び其選擇、調理の智識、調理法、病人の飲食物等臺所に關する一切の事柄を合理的に且通俗的に取扱つてゐるのが此書である。生命と直接關係ある臺所の學問は男女とも深く注意すべきである。

羅味 蕪 手輕に 家庭支那料理 四六判 並製 昭和 二、二 二四五 一、五〇 實業之日

支那料理は最近非常に盛になつて何處へ行つても行はれてゐる。本書は簡單に出来る家庭向の料理につき、日本人の嗜好に適するやう加減してゐる所に特色がある。

甫守謹吾 結婚のしおり 四六判 布装 昭和 三、三 一四三 一、五〇 南光社

結婚に關する慣習、作法、法律上の知識其他一般の事項を丁寧懇切に説述したもので國民結婚輔導會並に生活改善同盟會の趣旨をも參酌し、現代に最も適する様注意したものである。

水谷まさ子譯 新トルストイ童話集 菊判 背洋 昭和 二、一 五、六 三、八〇 富山房
 寫實的要素の多い物語、比喩、諷刺、訓話等を取交へ三十三篇集めたものであるが、何れもトルストイ自身の燃えあがる人類愛の現はれてある。味ふべき童話の本として本書をすすむ。

中村亮平編 朝鮮童話集(模範家 庭文庫十七冊ノ中) 菊判 洋布 大正 一、五、二 五、五 三、八〇 富山房

本書のはしがきに『朝鮮に渡つて此様な美しいお話が澤山あることを嬉しく思ひ、その中から美しいもの氣持のよいもの朝鮮らしいものをより抜いて書きつらねたのである云々』とある。收むるところの童話物語傳説六十二篇。

加治亮介編 オランダ童話集(世界 童話叢書十八篇ノ中) 四六判 布装 昭和 二、四 三〇、六 一、五〇 金蘭社

オランダ童話十七篇。所々に挿繪をはさんで讀者の想像を助けてゐる。高學年の兒童讀物として、又童話を話す教師の參考書として好適書である。

三宅房子 家なき兒(少年文 學名著選集ノ中) 四六判 背洋 昭和 二、四 二、六 一、三〇 金の星社

佛國の家庭小説家エクトル・マロー氏の原著。孤兒ルミが世の荒波にもまれつゝ、其間にあつて人生に或る希望を見出して進んで行く、曲折多き少年小説である。高學年の兒童に多大の感激と興奮とを以て讀まれる本である。

宇野浩二 春を告げる鳥 四六判 背洋 昭和 二、三 二、五 一、五〇 大日本雄辯會

著者の創作に成れる童話春を告げる鳥外十數篇を收めたもので、昔或る所にといつた風な極めて優しい童話である。尋常二三年頃に讀んで聞かせるには最も適したものである。

沖野岩三郎 海を越えて (童話讀本4) 四六判 背洋 昭和 二、三 一、九 一、〇〇 金の星社

海を越えて外五篇の童話を收む。乾燥無味に陥り易い有ふれた事實談も、童話としての程度までに面白く取扱はれるかといふことが本書によつてよく分ると思ふ。

安倍季雄 愛の子守歌 四六判 布装 昭和 二、一 四〇、九 二、〇〇 隆文館株式會社

現代模範童話選第二卷である。著者が東京大阪名古屋各放送局で放送したものを中心として書いたものである。月見草の金貨外十五篇何れも面白いものばかりである。

野口鶴編 乃木將軍物語(學級 四六判 並製 昭和 一九〇、九〇 株式會社
文庫三十六冊ノ中) 二、五 一、九〇 ヨウネン社

尋常五六年位の兒童に讀ませるに最も適した乃木將軍傳である。一夜を讀み明しても
惜しくない程に面白い本である。

原田指月 立志美談 海行かば 四六判 並製 昭和 二、四 三、五 一、三〇 田子書院

日本海の一孤島見島の一少年、日本海々戰の折砲聲爆煙の中に立つて一大決心を固め
身を犠牲にして父祖が墳墓の地を永久に救はんと奮闘した立志美談である。高學年の
兒童に適す。

葛岡龍吉編 少年少女對話集 四六判 並製 大正 二、八〇 一、三〇 北文館

日本女子大學出身の九女史によつて翻譯された歐米少年少女對話三十七篇と、東北帝
大教授新島博士の編纂に成れる優しきクリスマス・ページェント三題を輯收したもの
で、少年少女の讀物として近來稀に見る良書の一である。

發行所一覽

所在地	發行所名	振替口座
ア 東京市小石川區大塚町三六	蘆田書店	東京六一六八六
東京市神田區表猿樂町二三	朝日書房	東京三五二六九
東京市小石川區表町一〇九	アールス	東京二四八八八
大阪市北區中之島二丁目三	朝日新聞社	—
イ 東京市日本橋區鐵砲町六	磯部甲陽堂	東京一五〇五六
東京市神田區南神保町一六	岩波書店	東京二六二四〇
ウ 東京市日本橋區大傳馬町二丁目一六	内田老鶴圃	東京一二一四六
秋田縣小坂町	ウララ社	仙臺一六三二
オ 東京市淺草區柳橋通	岡村書店	東京一九〇六五
東京市牛込區長延寺町六	織田書店	東京五〇八一四
カ 東京市芝區愛宕下町一丁目一	改造社	東京八四〇二
力 東京市神田區中猿樂町二	巖松堂書店	東京六五五六
キ 東京市麴町區飯田町四丁目二〇	教文社	東京三三七二四

東京市神田今川小路一丁目四
 東京市外巢鴨上駒込二八
 東京市本郷區動坂町三五九
 ク東京市日本橋區室町三共ビルヂング別館
 ケ東京市京橋區尾張町二丁目一五
 東京市神田區小石川町四一
 コ東京市麴町區下六町四八
 東京市青山南町六丁目一〇一
 東京大森不入斗一二八一
 東京市神田區南神保町一六
 大阪市東區備後町一丁目三
 東京市日本橋區箱崎町四丁目一
 東京市京橋區南傳馬町一丁目一
 東京市青山南町三丁目五五
 東京市日本橋區下槇町一二
 東京市早稻田大學通り
 金星堂 東京三三二八
 金蘭社 東京六一七〇一
 金の星社 東京五九五九六
 科學知識普及會 東京四六六〇二
 警醒社 東京五五三
 敬文館 東京一二三三六
 厚生閣 東京五九六〇〇
 甲子社書房 東京五〇〇三九
 興學會出版部 東京六〇六二三
 交蘭社 東京四〇二七九
 弘文社 大阪七一二九七
 鴻文社 東京六八七八〇
 甲子書院 東京六六四五五
 行地社出版部 東京五二四八一
 弘文社 東京三七六九
 廣文堂書店 東京四九六八七

東京市本郷區駒込坂下町四八
 東京市外西大久保四五九
 東京市京橋區南槇町一八
 サ東京市神田區北神保町一三
 東京市麴町區下六番町六
 シ東京市神田區北神保町二
 東京市麴町區飯田町二丁目三
 東京市牛込區甲良町二三
 東京市神田區駿河臺南甲賀町一七
 東京日本橋區本石町三丁目一四
 東京市牛込區矢來町三
 東京市日本橋區數寄屋町一
 大阪市南區末吉橋通一丁目五
 東京市日本橋區通四丁目五
 東京市牛込區南榎町七二
 シ東京市京橋區南紺屋町一二
 講談社 東京六六二九
 古今書院 東京三五三四〇
 廣文堂 東京四六八四
 山海堂出版部 東京二一六九一
 佐々木出版部 東京五三六七五
 新學生堂 東京六六二七三
 資文堂 東京六二四八七
 新詩壇社 東京三一〇〇四
 主婦之友社 東京一八〇
 至誠堂 東京一七四四
 新潮社 東京一七四二
 春秋社 東京二四八六一
 松要書店 大阪一四二三一
 春陽堂 東京一六一七
 集成社 東京三六六九四
 實業之日本社 東京三二六

東京市牛込區矢來町三
 七名古屋市中區榮町二丁目七
 東京市日本橋區通三丁目一〇
 東京市神田區錦町一丁目一九
 東京市神田區錦町二丁目三
 東京市神田區北神保町三
 夕東京市神田區錦町一丁目二
 夕東京市神田區西紅梅町六
 東京市神田區今川小路二丁目一六
 東京市本郷區駒込坂下町四八
 東京市小石川區關口臺町五
 東京市神田區表神保町七
 千東京市四谷區鹽町一丁目一八
 東京市四谷區三光町八
 東京市日本橋區北島町一丁目三六
 東京市本郷區湯島三組町八〇

人文會出版部
 靜觀堂
 成美堂書店
 誠文堂
 成運堂書店
 先進堂書店
 田村文誠堂
 大東書院
 第百書房
 大日本雄辯舍
 大雄閣
 大同館
 千代田會
 中央報德會
 中外商業新報社
 中央出版社
 東京六九四〇八
 名古屋一六七
 東京一七一九
 東京六二九四
 東京八一九五
 東京四九〇三〇
 東京六四八〇一
 東京五四三三三
 東京七〇三七五
 東京三九三〇
 東京六六九二九
 東京八七二
 東京九七〇〇
 東京五五五
 東京一五七八〇

〇四

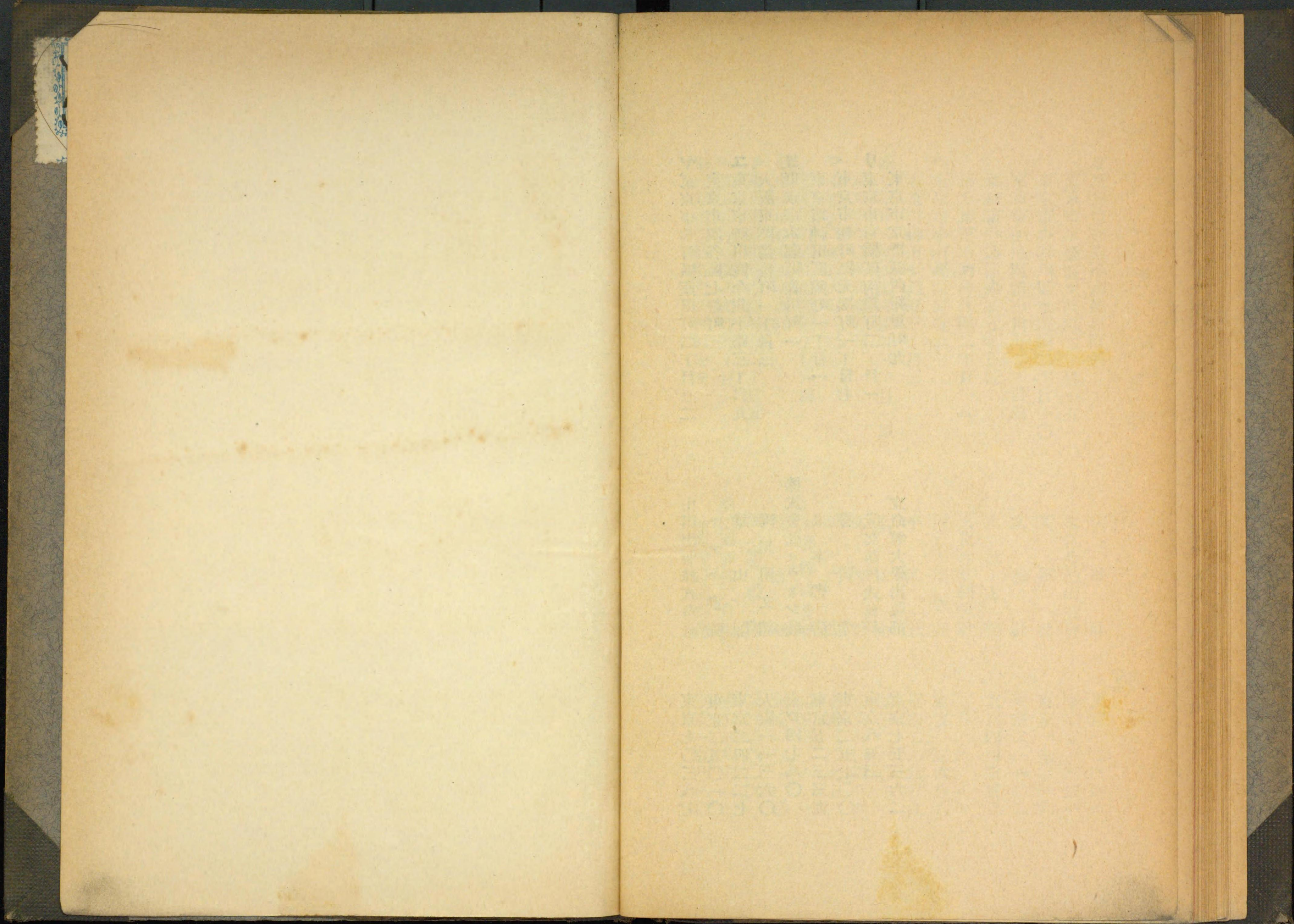
東京市京橋區北橫町千代田ビル二〇七
 テ東京市外中野町中野三六三四
 東京市本郷區向ヶ岡彌生町三
 ト東京市淺草區瓦町一〇
 東京市神田區萬世橋通
 大阪市東區上本町一丁目
 下東京市神田區表神保町二
 ナ東京市神田區表神保町二
 東京市神田區表猿樂町二
 ニ東京市本郷區弓町一丁目二五
 東京市小石川區表町九八
 東京市神田區平永町一
 ハ東京市日本橋區本石町三丁目一六
 八東京市神田區錦町一丁目六
 フ東京市神田區通神保町九
 東京市神田區鍛冶町四

中央美術社
 帝國教育會出版部
 帝國講學會
 東京榎本書房
 東京圖案印刷株式會社
 東洋圖書株式合資會社
 同文館
 南海書院
 南光社
 日本評論社
 日本學術普及會
 日本交通學會
 博文館
 培風館
 富山房
 富文館
 東京四七六八二
 東京六八二八六
 東京一二三五三
 東京七二七九三
 大阪三九五五六
 東京一三五
 東京一二二二八
 東京五七五七
 東京九六七八
 東京二八一八六
 東京六六九三一
 東京二四〇
 東京三二六一七
 東京五〇一
 東京二四七九二

〇五

- フ 東京市京橋區南紺屋町四
東京市京橋區尾張町二丁目一五
東京市小石川區水道端二丁目一〇
東京市牛込區新小川町二丁目四
東京市牛込區赤城元町三四
東京市芝區南佐久間二丁目一八
ヘ 東京市小石川區原町六
東京市神田區錦町三丁目三
ホ 東京市日本橋區本銀町三丁目一四
東京市牛込區矢來町三
マ 東京大久保百人町一一一
東京市日本橋區通三丁目一四
ミ 東京市京橋區日吉町
メ 東京市京橋區南傳馬町二丁目五
東京市京橋區入舟町五丁目一
モ 東京市牛込區喜久井町四五
- 文 錄 社 東京三二三四六
 - 文化生活研究會 東京五一五五一
 - 文 明 社 東京一七〇一六
 - 文 藝 社 東京二一一〇二
 - 文 教 書 院 東京四四三三三
 - 文化生活研究社
 - 丙午出版社 東京一五六八六
 - 平 凡 社 東京二九六三九
 - 寶 文 館 東京二八〇
 - 北 文 館 東京一四四八四
 - 萬 生 閣 東京五二九七
 - 丸善株式會社 東京五
 - 民 友 社 東京一三一〇〇
 - 目 黒 書 店 東京二八〇九
 - 明治圖書株式會社 東京一八五一一
 - 模範圖書刊行會 東京一五八三〇

- ヤ 東京市麴町區飯田町二丁目三二
東京市四谷區七軒町三
 - ユ 東京市神田區今川小路三丁目九
大阪東區備後町一丁目三
 - ヨ 東京市本郷區森川町一
東京市神田區錦町一丁目一
東京市麴町區元園町一丁目七
東京市京橋區南鍋町二丁目一
東京市京橋區西紺屋町九
- 山田出版株式會社 東京七〇三八七
 - ヤナセ書院 東京二五〇一〇
 - 雄 山 閣 東京二四二二七
 - 湯川明文館 大阪一一三六〇
 - 株式會社ヨウネン社 東京四七八〇
 - 米 本 書 店 東京五二三三九
 - 養 賢 堂 東京二五七〇〇
 - 隆文館株式會社 東京八五三
 - 立命館大學出版部 東京七五三六二



49
380

NO.

"F-M"
PAMPHLET BINDERS

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thickness
851(菊倍)	30.cm.	x 22.5cm.	x 1cm.
852(四六倍)	26. "	x 18.5 "	x 1 "
853(菊)	22.5 "	x 15. "	x 1 "
854(四六)	18.5 "	x 12.5 "	x 1 "
855(特)	24. "	x 15. "	x 1 "

other sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES OF ALL KINDS

F. MAMIYA & CO.
OSAKA - TOKYO - FUKUOKA

